

天理市

福住校区を中心とした高原地区

まちづくり基本構想

平成28年3月

基本構想策定の背景

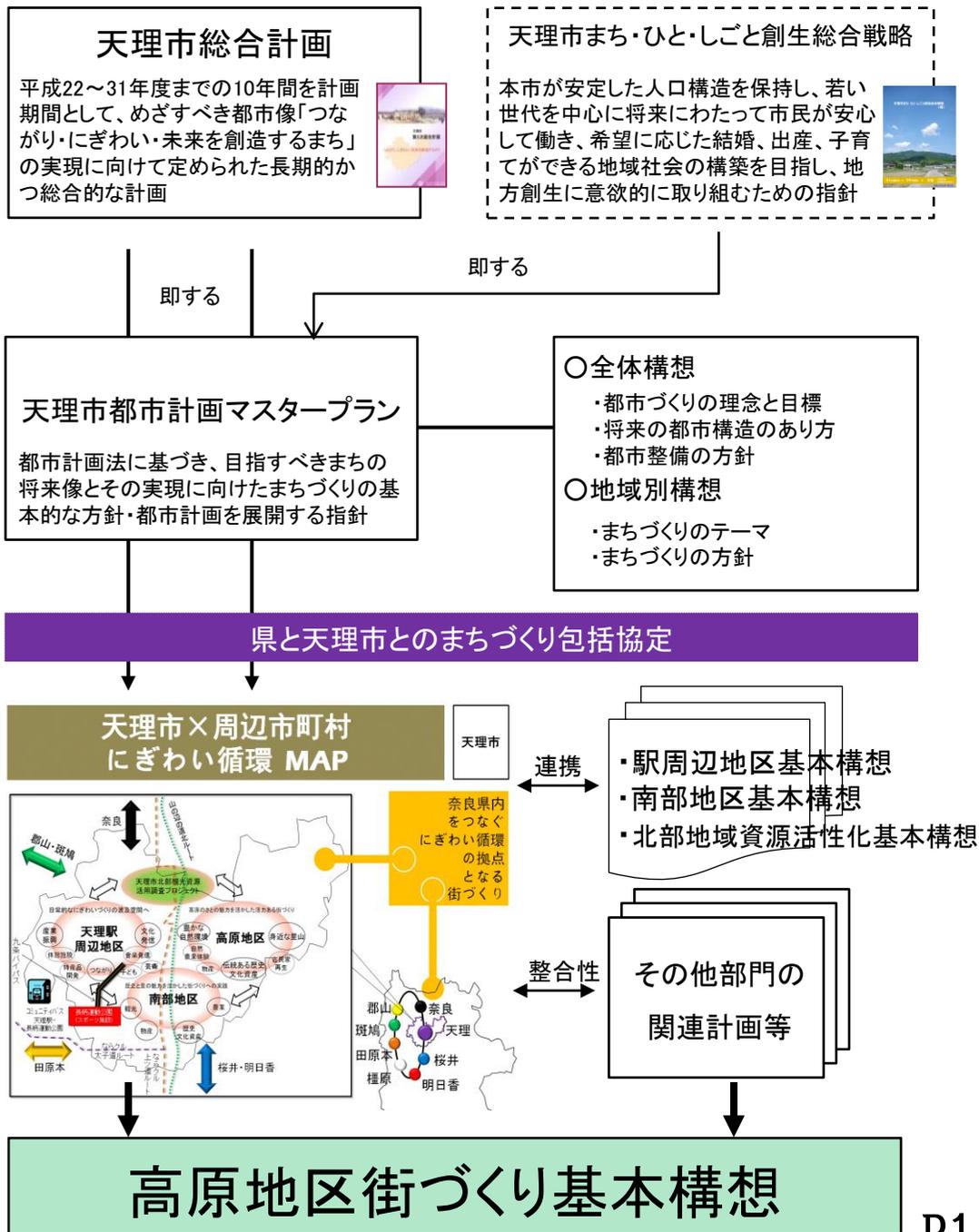
福住校区を中心とする高原地区は、市の東部山間部に位置し、豊かな自然環境を有する海拔450メートルから500メートルの高原地帯である。

近年、高原地区では人口の減少、少子高齢化が進むなどの顕著な問題に加え、観光拠点の点在化などにより、豊かな自然・歴史文化が生かされていないという課題が表出している。

このような認識のもと、本市では、平成26年度において、各地域の課題を解決するため、福住校区を中心とする高原地区、天理駅周辺地区、南部地区の3地区を基本とする天理市街づくり協議会を発足し、住民・地域活性化団体等とともに、裾野を広げた取組を行いながら継続的に目指す姿を共有してきた。

今般、長い歴史のなかで文化や伝統を育んできた地域に顕在化する様々な課題に対応する可能性を見出し、高原地区の目指すべき方向とその実現のための施策を打ち出し、自然と歴史文化を活かした個性と魅力あるまちを目指すためにまちづくり基本構想を策定する。

基本構想の位置付け



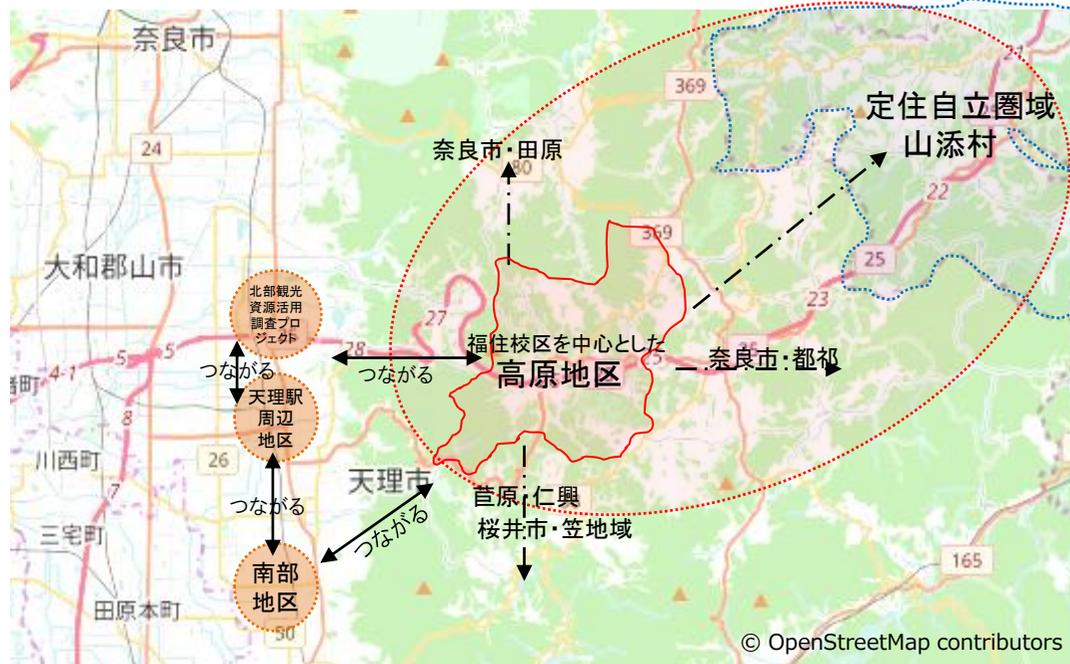
01 基本構想策定の概要

1. 基本構想策定の目的

◆将来ビジョンの共有
市民・事業者・行政などが協働してまちづくりを推進するため、将来ビジョンを共有する。

◆まちづくりの実現
地区が抱える課題や長期的な展望を踏まえた総合的な計画を立て、本市の核にふさわしい“にぎわい”と“やすらぎ”を感じるまちづくりを図る。

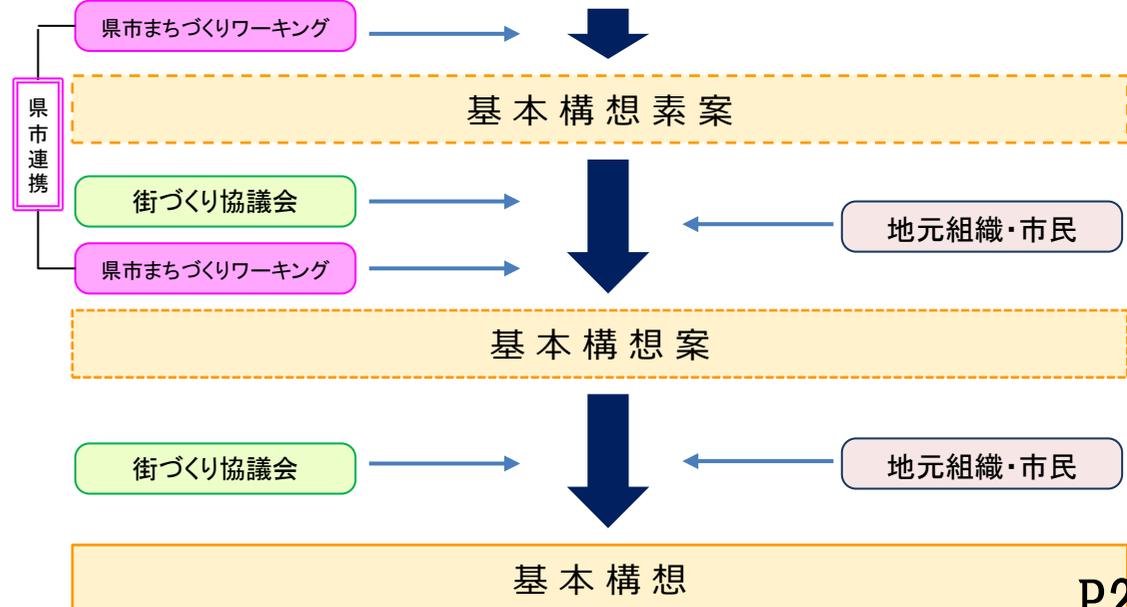
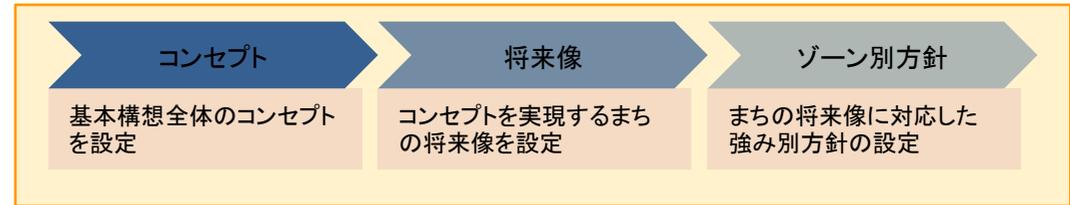
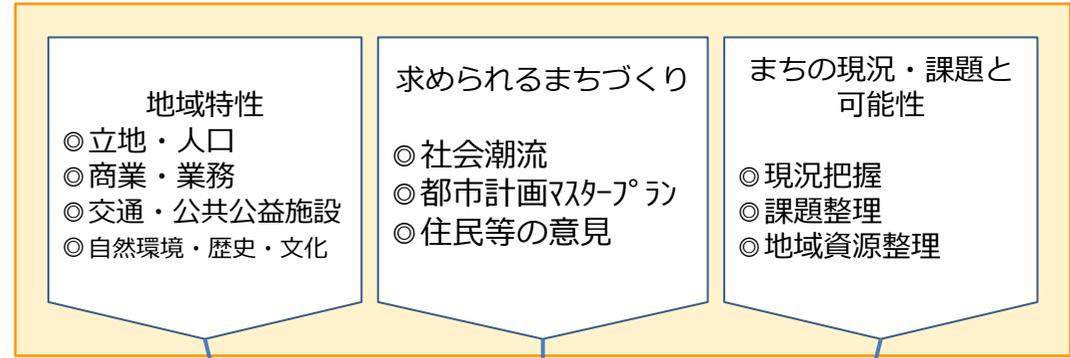
2. 対象区域



福住校区(福住町、山田町、長滝町)を基本エリアとし、隣接する菅原・仁興、奈良市(都祁・田原地区)・山添村の大和高原地域、桜井市・笠地域などとも広域的連携をすすめる。

3. 策定までの流れ

視点
里山の魅力を活かした新たなライフスタイルを提案する。



02 地区の現状

(1) 立地・条件

- ・市の東部山間地域(標高450~500m)に位置し、東側は奈良市(旧都祁村)、南側は桜井市などに隣接する。
- ・広域的な交通アクセスを利用して大阪・名古屋都市圏から約1時間の通行圏域にある。

高原地区の位置



高原地区周辺の地形



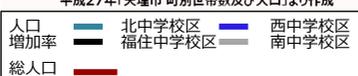
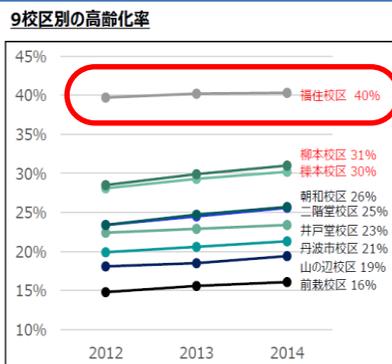
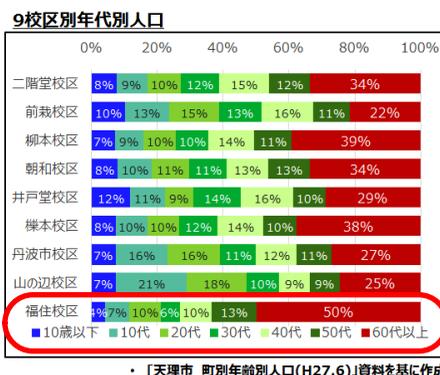
- ・児童数についても人口減少に伴い、小学校・中学校とも年々減少しており、少人数教育、地域の魅力・特色を活かした小・中学校の取り組みを見出す必要がある。

児童数推移	H17	H22	H27
福住小学校	73名	65名	42名
福住中学校	46名	34名	23名

(2) 産 業

- ・豊かな森林環境を利用した、ゴルフ場などのレクリエーション施設が設置されている。
- ・大型商業施設は存在せず、日常品購入は市街地にある大型スーパーや宅配システムを利用している。
- ・事業者は、大規模なプラスチック製造工場や運輸倉庫業を中心に、個人事業者となる木材加工場・工房が存在する。

- ・福住校区人口は1,347人(H27.12月)であり、減少傾向にある。
- ・世帯数は平成27年(H27.12月)で565世帯であり、増加している。
- ・世帯人員は著しく減少しており、地域における主な家族構成に変化が起きているとも考えられる。
- ・人口の年齢構成では、高齢化率は平成26年で40%であり、市内4中学校区中で最も高齢化が進んだ地域となっている。同時に、20歳未満の人口は校区全体の11%であり、4中学校区の中で最も少なくなっている。

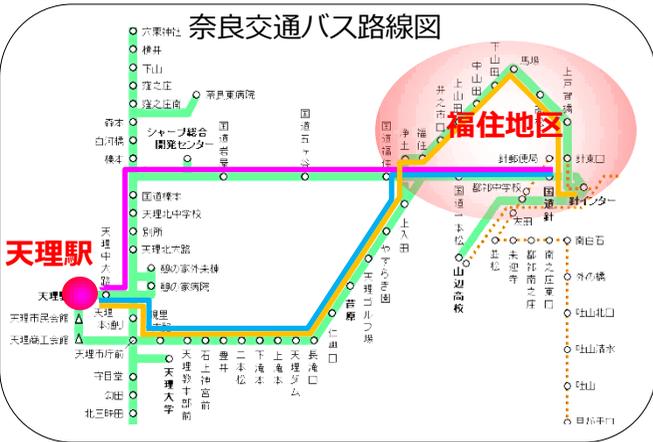


02 地区の現状

(3) 交通・公共公益施設

・鉄道はなく、バスは奈良交通、三重交通で運営されているものの、運行本数は1日あたり1、2便と少ない。また、天理駅からのデマンドタクシー「ぎんなん号」が1日5便の運行体制を敷いている。

・東西を名阪国道が貫いており、奈良・大阪圏及び三重県への交通アクセスは優れている。しかし、名阪国道の通行止めの際には代替道路として国道25号を走る車が多い。

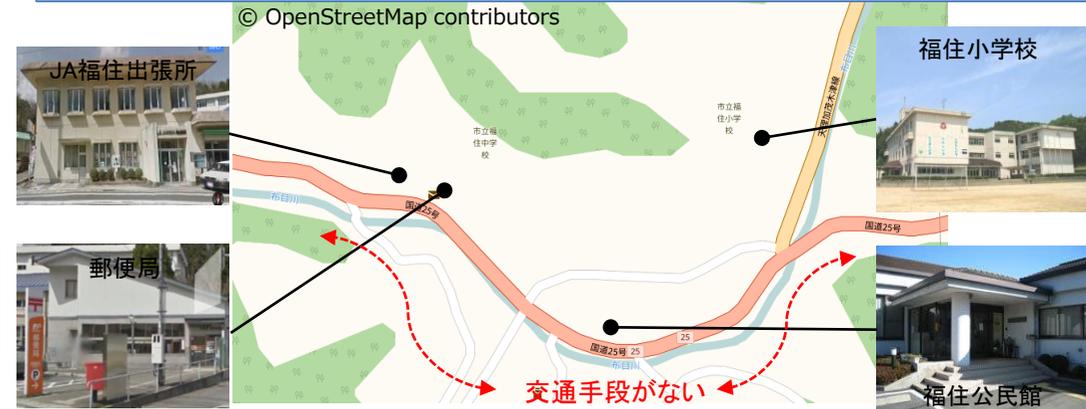


天理市の中心部と東西南北の各エリアを運行区域として、完全予約制で運行する乗合タクシー



天理市デマンドタクシー「ぎんなん号」

・小学校・中学校の教育施設や、社会教育施設である公民館、農協、郵便局などが集積しているものの、各集落と結ぶ交通手段がないことが課題となる。

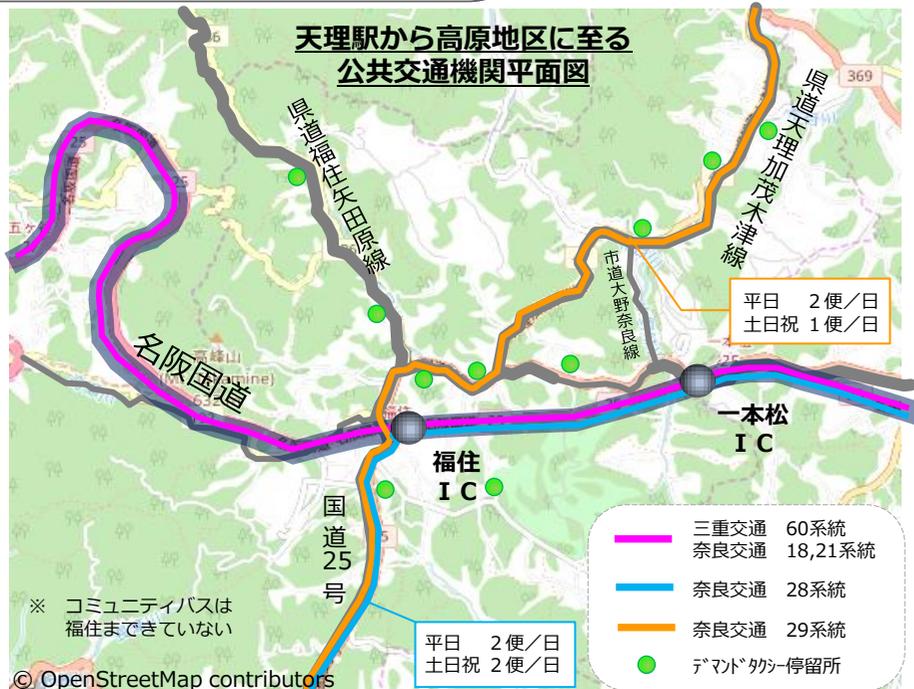


(4) 自然環境・歴史・文化

・秋には黄金色にたなびく稲穂が映える田園風景が広がる豊かな自然環境と古き良き茅葺き屋根がある家並みを残した集落景観がある。

・氷の神様を祀る氷室神社や、氷を自然貯蓄した天然貯蔵庫「氷室(ひむろ)跡」が20数基残存するなど氷に由来する歴史資産がある。

・昭和の情景を今も伝える木造校舎(山田公民館)が残る。



まちづくりマップ



氷まつり



復元氷室



山田公民館



氷室神社



03 現状を踏まえた課題整理

◆耕作放棄地の拡大・増加

- 農業後継者の確保が困難であり、使用されない耕作放棄地が増えている。

◆観光拠点の点在化による連携不足

- 観光拠点やレクリエーション施設が点在しており連携ができていないため、観光資源、施設がうまく活用できていない。

◆人口減少・少子高齢化

- 天理市内の中で最も高齢化率が高い地区になっており、祭事や行事など協働活動の維持が困難となっている。

◆地域住民が集う場所がない

- 住民が集まる場がないため、交流ができない。

◆空き家や休止施設が有効利用されない

- 人口減少に伴い、空き家や休止施設が増える一方で、施設の有効活用策が見いだせていない。

◆雇用場所の減少

- 地区内における雇用の場所が少ない。

◆自家用車以外の日常交通手段が乏しい

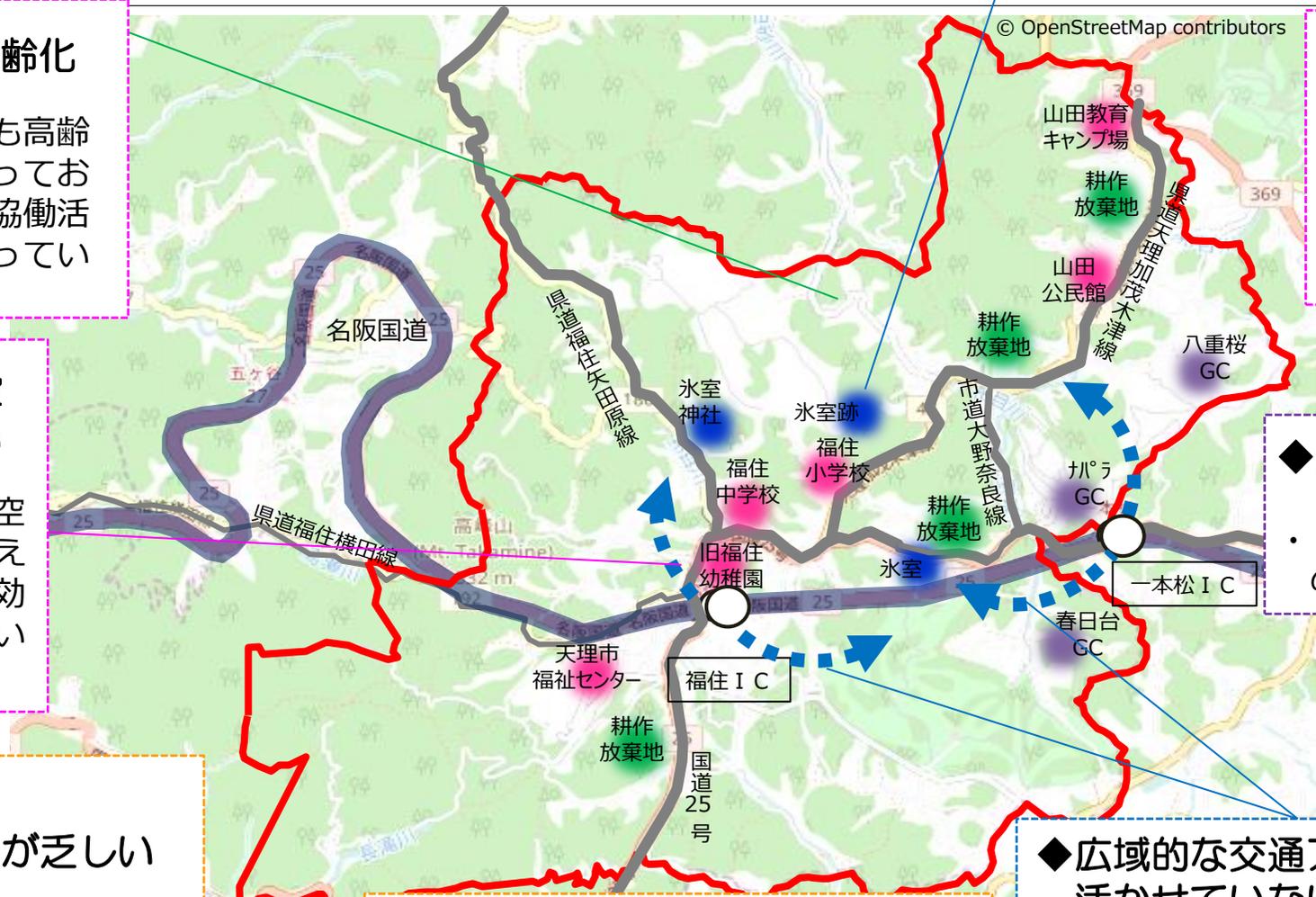
- 高齢化が進んでいるにもかかわらず、通院や日常生活には自家用車が必須であり、公共交通機関による移動手段が乏しい。

◆安全性が確保されていない

- 名阪国道が通行止めの際には大型車両等、多くの車が流入し、地域内の安全性が確保されていない。

◆広域的な交通アクセスが活かしていない

- 名阪国道の沿いでインターが付近にあるにもかかわらず、アクセス性が弱いため、立地条件が活かせず周遊する人が少ない。



04 地区の課題と取組方針

地区の課題	取組方針
<p><課題1>－農業－ ・農業後継者確保の困難や鳥獣被害による農業経営の阻害 ・耕作放棄地の増加・拡大 ・寒冷地のため農作物栽培が多様化できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 耕作放棄地の利活用の促進 ■ 特産品の開発・栽培促進支援
<p><課題2>－観光－ ・地域固有の伝統行事が時代とともに廃れゆく可能性がある ・観光拠点の点在化による連携不足 ・観光資源の情報発信不足 ・広域的な交通アクセスが活かされていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域固有の伝統的な文化資産や観光資源の継承と活用 ■ ウォーキングやサイクリングでの周遊推進による観光資源との連携 ■ 他地域と連携した観光資源のPR ■ 回遊性の向上を目指した道路整備
<p><課題3>－人口・生活－ ・人口減少・少子高齢化(リーダーとなる人材の減少と不安の増加) ・地域住民が集う場所の減少 ・青年団・婦人会等の中間組織の衰退 ・祭事や行事などの共同活動の維持の困難 ・空き家、休止施設の有効利用策が見出せない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空き家を活用した定住人口維持・増加を目指す移住促進支援 ■ 地域住民の集いの場づくり ■ 多世代交流の拠点づくり
<p><課題4>－地域交通－ ・自家用車以外の日常的交通手段が乏しい(高齢者の通院や日常用品の購入が困難) ・地域内の生活道路の安全性の確保ができていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティバス等の暮らし続けるための移動支援の充実 ■ 生活道路安全性確保のための道路整備
<p><課題5>－仕事－ ・雇用場所の減少 ・(空き家、休止施設の有効利用策が見出せない)再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な働き方を提供する環境づくりを推進

基本コンセプト

「住んでよし！訪れてよし！」を体現する高原のさと

基本目標

◎里山資源を活用したまちづくり ◎地域特有の気候特性を活かした観光まちづくり ◎互助と互恵が息づくぬくもりのあるまちづくり

取組方針

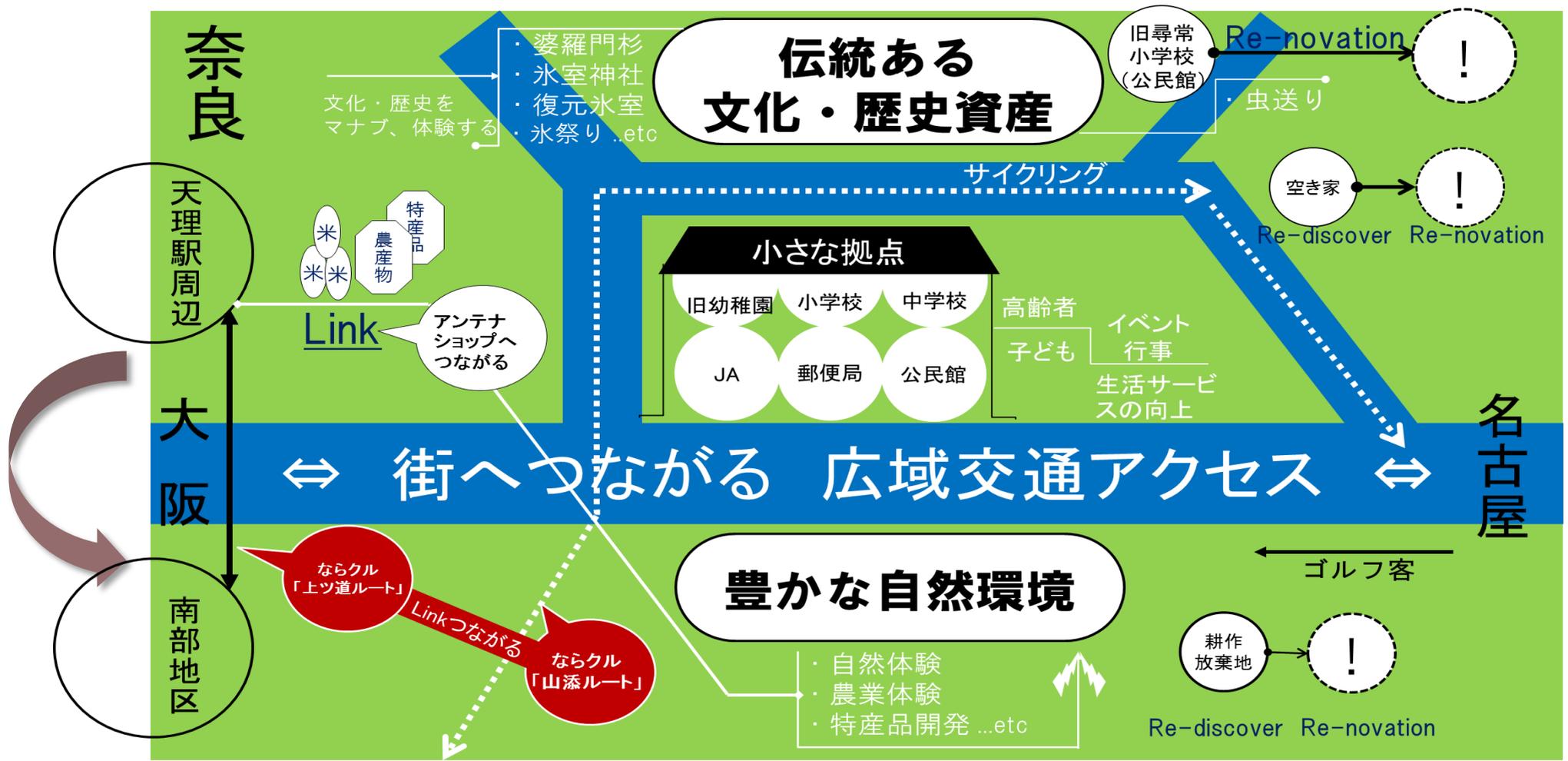
○「豊かな自然環境」を活かす ○「伝統の歴史・文化資産」の魅力を創出する ○「まちへつながる」高原のさとをPR

05 まちづくりのコンセプト

1. 基本構想コンセプト

「住んでよし！訪れてよし！」を体現する高原のさと

2. まちの将来像(コンセプトの視覚化)



06 まちづくり構想図

© OpenStreetMap contributors

対象区域

里山資源を活用したまちづくり

- ・里山交流
- ・耕作放棄地を活かした農業体験、市民農園等の設置
- ・特産品の開発・栽培促進支援／販売支援
- ・調和した観光案内サイン・案内板の補修・整備

豊かな自然環境



大和茶



道安ホオズキコンフ



天理大学生と住民協働による稲刈り体験

互助と互惠が息づくぬくもりのあるまちづくり

- ・多世代交流拠点・雇用創出の場づくり
- ・隣接する大和高原地域との連携
- ・暮らし続けられるための移動支援
- ・定住人口維持・増加を目指す移住促進支援
- ・交流人口増加を目指す民泊推進



お試し居住
地域居住
移住
体験



旧福住幼稚園
多世代交流
テレワーク

福祉
センター

民泊
体験

福住 I C
体験
農業

耕作
放棄地

観光拠点
復元氷室

体験
農業

ならクル山添ルート

一本松 I C



献上祭

地域特有の気候特性を生かした観光のまちづくり

- ・氷室神社・氷室跡の伝統文化資産の継承
- ・献上祭や虫送り等の地域固有の祭り・行事の継承と拡大
- ・国道25号の整備により、交通利便性及び地域内安全性の確保・観光の回遊性を創出
- ・サイクリング・ウォーキング大会のコース誘致



献上祭

凡例
まちづくり
対象区域

07 具体的な取組み

「まちの将来像」を実現するため、強みや地域特性を活かした取組みを図るべく、3つの基本目標・方針に区分する。

I

基本目標: 里山資源を活用したまちづくり

基本方針: 「豊かな自然環境」を活かす

特 性: 美しい里山と風光明媚な景観

II

基本目標: 地域特有の気候特性を生かした観光のまちづくり

基本方針: 「伝統の歴史・文化資産」の魅力を生み出す

特 性: 日本書紀に記述される「氷」にまつわる氷室神社・氷室跡の存在

III

基本目標: 互助と互恵が息づくぬくもりのあるまちづくり

基本方針: 「まちへつながる」高原のさとをPR

特 性: ぬくもりが息づき、絆でつながる地域、広域的交通網

07 具体的な取組み

1. 里山資源を活用したまちづくり

基本方針

「豊かな自然環境」を活かす

●里山交流

・豊かな・四季を感じる自然環境を活用し、山田公民館等で市街地と高原地域のこどもらによる里山交流・教育体験を創出する。

●耕作放棄地を活かした農業体験の実施、市民農園等の設置

・農業後継者不足による増加傾向を見越し、耕作放棄地を活かした農業体験を実施する(市民農園・教育型農園等の設置)。

●特産品の開発・栽培促進支援／販売支援

・道安ホオズキなどの地域作物の生産・加工・販売をはじめ、新たな収益作物(酒米など)の栽培を促進支援、販売の機会を創出する。

●調和した観光誘導サイン・案内板の補修・整備

・豊かな自然景観と調和した色彩や形態を有する誘導サイン等の整備を図り、点在する観光拠点への誘導を図る。

参考イメージ



2. 地域特有の気候特性を活かした観光のまちづくり

基本方針

「伝統の歴史・文化資産」の魅力を生み出す

● 伝統文化資産の継承

・氷の神様を祀る氷室神社や天然の貯蔵庫「氷室」跡など、奈良時代・日本書紀に記された時代を後世に継承する。

● 地域固有の祭り・行事の継承と拡大

・時代の進行とともに廃れゆく可能性のある伝統行事を、着実に後世に継承する。

・特有の資源を見出した住民創案の「氷祭り」を、氷室のまちをPRする既存の観光イベントと融合させる。

● 生活の営みを継続しつつ、交通利便性及び地域内安全性の確保・観光の回遊性を創出するため、国道25号を整備する。

● サイクリング・ウォーキング大会のコース招致

・風光明媚な景観を活かしたサイクリング大会コースの招致

参考イメージ



国道25号にぎわい



3. 互助と互恵が息づくぬくもりのあるまちづくり

基本方針

まちへつながる高原のさとをPR

- 多世代交流拠点・雇用創出の場づくり(施設リノベーション)
 - ・役割を終えた幼稚園に地域の活性化やテレワーク等による雇用の創出、福祉の向上に寄与する民間事業者を誘致し、新たな地域再生を始動。
- 隣接する大和高原地域との連携
 - ・隣接する奈良市(都祁・田原付近)、近接する山添村などの広域的な大和高原エリアとの連携
- 暮らし続けられるための移動支援
 - ・地域で育つ子どもらの通学支援、地域内交通(コミュニティバス・デマンドタクシー)の拡充、買い物支援対策
- 定住人口維持・増加を目指す移住促進支援
 - ・涼夏を味わう避暑地としての移住・二地域居住の促進、お試し居住モデルの実施による体験居住の機会付与、定住者向けの空き家改修助成、**「移住・交流ガーデン」との連携・移住促進コンシェルジュ等の配置**を実施。
- 交流人口増加を目指す民泊推進
 - ・高原地区の魅力を周知・発信するための機会を創出する。

参考イメージ

